

令和 6 年 6 月 14 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2023

課題番号：18K10548

研究課題名(和文)慢性心不全高齢者の再入院を予防するシームレスケアを創る退院支援ガイドラインの開発

研究課題名(英文)Development of discharge support guidelines to create seamless care to prevent re-hospitalization in elderly patients with chronic heart failure

研究代表者

森下 安子(Morishita, Yasuko)

高知県立大学・看護学部・特任教授

研究者番号：10326449

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,200,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、慢性心不全高齢者の繰り返す再入院に着目し、その防止に向け病院から在宅へのシームレスケアを提供する退院支援ガイドラインを開発することである。インタビュー結果等よりシームレスケアとして「入退院を繰り返す生活行動について多職種多組織から情報を集める」など11のケアを明らかにした上で、横軸に時間軸、縦軸に組織別、職種別の枠を設定し、退院支援ガイドラインを開発した。そのガイドラインを用いて、高度急性期の医療機関に入院した2事例のモデル事例において入院中および退院後の支援経過と、ガイドライン活用によるケア提供の成果と課題についてインタビューを行い、ガイドラインの洗練化を行った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は再入院が多く社会的問題となっている慢性心不全患者の再入院予防に向け、治療方針の決定に関する意思決定支援を含め、入院中のケアを一貫性・連続性のある形で在宅療養の場へ継続することができるシームレスな退院支援ケアとはどのようなものか、退院支援ケアを地域の実情に合わせて運用するシステムとはどのようなものであるかをアクションリサーチを用いて現実可能性のあるシステムを明らかにしたものである。さらに、事例展開も行い、実現可能性をさらに保証しているものとして学術的意義、社会的意義があるものである。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study is to develop discharge support guidelines that provide seamless care from hospital to home in order to prevent repeated re-admissions of elderly people with chronic heart failure. Based on interview results, eleven types of seamless care were clarified, such as "collecting information from multiple professions and organizations about lifestyle behaviors that lead to repeated hospitalizations and discharges." Then, a framework was set up on the horizontal axis for time and on the vertical axis for different organizations and occupations, and discharge support guidelines were developed. Using these guidelines, interviews were conducted on two model cases of patients admitted to a highly acute care institution, regarding the support process during hospitalization and after discharge, and the results and challenges of providing care using the guidelines, and the guidelines were refined.

研究分野：在宅看護

キーワード：慢性心不全高齢者 退院支援 シームレスケア

1. 研究開始当初の背景

慢性心不全高齢患者は、急性増悪し入院した場合でも身体的機能低下があまり認められないことも多く、退院後外来通院以外において、生活管理の支援、異常の早期発見と迅速な医療的対応が可能なケア提供がなされず再入院につながっている現状がある。慢性心不全治療ガイドライン(日本循環器学会、2013)では、再入院予防には慢性心不全の治療において多職種(医師・看護師・薬剤師・栄養士等)による包括的疾患プログラムの必要性が示されているが、包括的疾患プログラムの提供は、在宅療養の場では制度的にも専門職のマンパワー的にも困難を伴う。よって、在宅におけるサービス提供体制を十分考慮した在宅移行支援の取り組みが必要と考える。慢性心不全高齢者においては、壮年期の患者とは異なり、予後と寿命を勘案して、今後の病状の変化に対し、入院での治療あるいは在宅で可能な範囲の治療という、治療方針と場の選択についての意思決定支援が必要である。現在、このような意思決定支援が十分されていないことが、急性増悪時の安易な入院治療につながっており、入院中だけでなく在宅療養中も継続した意思決定支援をふまえた退院支援の明確化、指針となるケアガイドラインの開発が喫緊の課題となっている。

2. 研究の目的

研究の目的は、医療費増加の一因である慢性心不全高齢者の繰り返す再入院に着目し、その予防に向け病院から在宅へシームレスにケアを提供する退院支援ガイドラインを開発することである。

3. 研究の方法

研究目標 1：慢性心不全高齢者の再入院予防に向けた病院から在宅へのシームレスな退院支援ケアおよび病院スタッフと在宅スタッフが協働して提供するケアシステムの明確化

1)慢性心不全高齢者の再入院予防に向けて、在宅スタッフと協働して退院支援を行なった事例(5事例)について、病院および在宅双方の関わった専門職や組織に面接調査を行う。

2)退院支援ケアおよび提供するケアシステムの明確化

1)得られたデータを質的帰納的に分析し、慢性心不全高齢者の退院支援ケア、退院支援ケアに関わる病院・在宅スタッフ双方の各職種の役割と動き、組織の役割と動きを抽出する。

研究目標 2：退院支援ガイドライン(案)の作成

3)研究目標1の成果と国内外の文献レビューの結果をもとに、退院支援ガイドライン(案)を作成する

研究目標 3：高度急性期病院にて病院と在宅スタッフが協働でケアを展開できるシステムを構築、退院支援ガイドライン(案)を試行し、洗練化を行う。

4)コアメンバーを結成し、退院支援ガイドライン(案)試行に向けて、各職種、各組織の役割と動きについて、地域の実情に合わせて検討し、モデル事例を選定し、退院支援ガイドライン(案)に基づき、退院支援ケアを提供する(2事例)。モデル事例の入院中および退院後の支援経過と、ガイドライン活用によるケア提供の成果と課題について事例に関わった病院、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、在宅ケア事業所スタッフを対象に事例ごとにグループインタビューを行い、得たデータを分析し、評価する。

5)評価を基にした退院支援ガイドラインの洗練化を行う。

4．研究成果

1) 慢性心不全高齢者の再入院予防に向けた退院支援におけるシームレスケア

慢性心不全高齢者の再入院予防に向けた退院支援におけるシームレスケアには、「患者家族、地域、多職種と関係性を構築する」「患者・家族の望む生活を明確にする」「入院早期から心不全に影響を及ぼす生活レベルの情報を多職種・多組織から集める」「患者家族の自己管理能力をアセスメントし、許容可能な範囲で自己管理する力をつける」「生活行動から生活上の心負荷のリスクを抽出する」「病態観察と生活状況の関連から心不全悪化の病態予測をする」「心不全悪化のリスクを回避するために多側面から支援する」「退院後の生活状況の予測から対応パターンを準備する」「退院後の生活を想定して医療的ケアをシンプルケアへ切り替える」「病状管理が可能な地域の資源を選べるように支援する」「心不全悪化を予測した体制を準備する」があった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小原 弘子 (Kohara Hiroko) (20584337)	高知県立大学・看護学部・助教 (26401)	
研究分担者	高樽 由美 (Takataru Yumi) (30783154)	高知県立大学・看護学部・助教 (26401)	
研究分担者	森下 幸子 (Morishita Satiko) (40712279)	高知県立大学・看護学部・准教授 (26401)	
研究分担者	川上 理子 (Kawakami Michiko) (60305810)	高知県立大学・看護学部・准教授 (26401)	
研究分担者	竹中 英利子 (Takenaka Eriko) (20849814)	高知県立大学・看護学部・助教 (26401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------